感動のカーテンコール

――大成功のうちに閉幕

市民オペラ「ラ・ボエーム」

7月17・18日の両日、白石市制施行50周年記念事業のハイライト、延べ1,000人もの市民が参加した市民オペラ「ラ・ボエーム」がホワイトキューブで上演されました。

終演後のカーテンコールでは、観客から絶賛の拍手が鳴りやまず、感動に包まれながら市民オペラは幕を閉じました。

市民の皆さんとともに作り上げました

市民の芸術文化活動をいかんなく発揮するために

今年4月に市制施行50周年を迎えた白石市。昨年8月に開催された「全日本学生新体操選手権大会」を皮切りに、特別巡回ラジオ体操や重要無形文化財「宮中雅楽」特別公演など、多彩な記念事業を市民の皆さんとのパートナーシップにより実施してきました。

市民オペラの上演は、ホワイトキューブのオープン以来、これまで国内外のさまざまな一流アーティストに接する機会を得て培った、市民の芸術文化活動をいかんなく発揮する機会として企画されたものです。「市民の皆さんとともに」という50周年記念事業の理念のもと、市民の皆さんによる市民オペラ実行委員会が中心となって準備を進めました。

芸術監督は三枝成彰氏、そして演出と装置・衣装デザイン担当には、アーティストの日比野克彦氏を迎え、日比野氏を中心に昨年11月から大道具・小道具の制作活動のほか、衣装、美術、ヘアメイク、黙役など、上演に関わるあらゆる分野で市民の皆さんが参画し、「ラ・ボエーム」上演に向けての準備が本格的に始まりました。

市民オペラ公演に向けて着々と準備が進められました

■オペラワークショップを実施

市民オペラ成功に向けて、昨年11月からワークショップを4回実施。子どもたちから大人まで、大勢の市民が日比野克彦氏とワークショップを重ねながら表現力や創造力を高めました。

2月からは合唱練習もスタート。舞台衣装づくりや大道具・小道具製作なども、本格的に準備が始まりました。

○昨年12月の第2回ワークショップ

▲グループに分かれて2種類の音楽に乗せて段ボール・ざる・布を使い、「転換」を表現しました。

■衣装を新聞紙で製作

出演者の衣装は、持ち寄った衣服などに、テープで裏張りした新聞紙を張り合わせて製作されました。

参加した皆さんは、「自由なアイデア・発想を出すのが楽しい」と、色やデザインなど、各自が思い思いにイメージしながら衣装作りを行いました。

▲衣装作りの様子。追い込みの時期には夜遅くまで作業が続けられました。

▲背景に使用する雪の絵は、市内の幼稚園や保育園の園児、小中高生たちが描きました。（6月に開催されたワークショップ）

■大道具・舞台設営

鉄パイプを組み上げ、大がかりな構造物を作るなど、市建設職組合の皆さんが中心となって舞台などを設営しました。

■出演者の立ちげいこ

キューブ合唱団に所属している方、学生時代に経験して以来の方、今回が初めての方など出演者はさまざまでしたが、演出助手の飯塚励生氏の情熱的な指導のもと、熱のこもった練習を夜遅くまで続けました。

▲出演者の皆さんは「動いていることが楽しい」と、立ちげいこを重ねるたびに表現力を高めていきました。

▲舞台後方には鉄パイプを組み上げ、特設の階段が作られました。